

第 10-14 回 (2021/6/22-7/20)	総合演習 北村 由美 准教授(附属図書館)
--------------------------------------	---------------------------------

■ 第 10 回 : 6 月 22 日(火)

- ✓ 場所: 学術情報メディアセンター南館 303 (Zoom によるオンライン授業)
- ✓ 出席者: 14 名
- ✓ 講義資料: 講義スライド
 - 課題① (レビュー論文の構成)
 - 課題②③ (キーワードマップと構造化シートの作成)

➤ 講義(15:00~15:30 担当:北村先生)

総合演習の目的
レポート執筆に向けて
レポート課題への一般的なアプローチ
キーワードマップ・構造化シートの作成

➤ 個人演習(15:30~16:25 担当:演習補助者)

- ・ 課題①:レビュー論文の構成分析
- ・ 課題②③:レポートテーマの検討(キーワードマップの作成・構造化シートの作成)

➤ 授業アンケート(16:25~16:30)

★ 2021 年度の主な変更点

- 講義内で「学術情報リテラシー教育支援のためのルートマップ」を紹介
- キーワード同士の関係性(上位語・下位語・関連語等)を意識させるため、課題③として「構造化シートの作成」を導入

■ 第 11 回 : 6 月 29 日 (火) (※この回から、対面授業が再開された)

- ✓ 場所: 学術情報メディアセンター南館 303
- ✓ 出席者: 16 名
- ✓ 講義資料: 講義スライド
演習課題 (文献調査とペアワーク準備)
予習課題 (著作権クイズ)

➤ 講義 (15:00~15:30 担当:北村先生)

前回の課題の解説
研究生産物のサイクルと多様な研究資料
批判的思考と情報の評価
収集した情報を管理する

➤ 個人演習 (15:30~16:15 担当:演習補助者)

- ・ 課題【1】: 期末発表テーマに関連のある文献 (図書・論文・新聞記事) の調査
- ・ 課題【2】: 文献調査・期末発表構成の進捗状況の記録

➤ 発表日程の調整 (16:15~16:20)

➤ 授業アンケート (16:20~16:30)

➤ 著作権クイズ (授業時間外)

★ 2021 年度の主な変更点

- 講義トピックとして、新たに「批判的思考 (クリティカル・シンキング)」を追加
- 文献管理ツール (EndNote basic) は紹介のみに留め、実習は省略

■ 第 12 回 : 7 月 6 日(火)

✓ 場所: 学術情報メディアセンター南館 303

✓ 出席者: 15 名

✓ 講義資料: 講義スライド

第 11 回演習課題

ペア演習用ワークシート

課題発表のデモンストレーション

➤ 講義(15:00~15:30 担当:北村先生)

著作権クイズ

引用と参照

レポート課題のポイント

➤ 事務連絡(15:30~15:43 担当:演習補助者)

- ・ ペア演習で用いる資料等の配布
- ・ 期末発表資料の提出方法に関する諸注意

➤ ティーチングアシスタントによる課題発表デモ(15:43~15:55 担当:二重作)

➤ ペア演習(15:55~16:25)

- ・ 受講生同士が期末発表・レポートの構想を相互に紹介・評価

➤ 授業アンケート(16:25~16:30)

★ 2021 年度の主な変更点

- 講義トピックとして、新たに「デジタル・コモンズ」「クリエイティブ・コモンズ」を追加
- 期末レポート作成に向けた文献調査と期末発表の構成案の検討状況(「第 11 回演習課題」)を受講生が相互に紹介・評価し、内容のブラッシュアップをはかる目的で「ペア演習」を導入
- 期末発表のプレゼンテーションについて、モデルを受講生に示す目的で、ティーチングアシスタントによる「課題発表デモ」を実施

■ 第 13 回 : 7 月 13 日(火)

- ✓ 場所: 学術情報メディアセンター南館 303
- ✓ 出席者: 12 名
- ✓ 講義資料: 発表予定表
発表の進行方法と時間管理

➤ 発表の進行方法と時間管理の説明(15:00~15:10 担当:北村先生)

➤ 期末レポート構想の発表(15:10~16:30 ※受講生 7 名の発表)

★ 2021 年度の主な変更点

- コロナ禍の影響で、受講生が集合して準備を進めることが困難であるため、グループワーク形式による発表は不採用
- 2020 年度同様に「個人発表」を採用し、以下の要素を新たに導入
 - ・ 発表資料が授業内で解説した要素を満たしているかを自己確認できるように、「発表前セルフチェックシート」を作成
 - ・ 5 分間の発表時間を、卓上ベル(国際高等教育院の授業準備室から貸出)を用いて厳密に管理
 - ・ 発表内容へ最初にコメントするコメンテーターを受講生から 1 名ずつ指定(受講生の欠席で人数が不足の場合は演習補助者・TA が代理)
- 期末レポートが授業内で解説した要素を満たしているかを自己確認できるように、ティーチングアシスタントに依頼して「レポート提出チェックリスト」を作成
- 時間超過のため授業アンケートは時間中には未実施

☆ 受講生の発表テーマ

1. 自動運転車の倫理: 責任所在のありか
2. フランス革命と平等
3. 局所的天候の予測可能性
4. 日本の学校教育における英語教授法の歴史 ―文法訳読法の是非―
5. 認知症予防のための食生活
6. 飢餓・栄養不良とその解決策
7. 発達障害の原因・対策

■ 第 14 回 : 7 月 20 日(火)

- ✓ 場所: 学術情報メディアセンター南館 303
- ✓ 出席者: 9 名
- ✓ 講義資料: 発表予定表
発表の進行方法と時間管理

- 発表の進行方法と時間管理の説明(15:00～15:05 担当:北村先生)
- 期末レポート構想の発表(15:05～16:10 ※受講生 6 名の発表)
- 授業アンケート(16:10～16:30 ※国際高等教育院依頼分を含む)

☆ 受講生の発表テーマ

1. 不登校児の居場所としてのフリースクール
2. 人工知能による作曲～手法と実例～
3. 日本における発電分離の再生可能エネルギーへの影響
4. ト라우マがもたらす心的外傷とその治療のアプローチ
5. 若者の食習慣について
6. 肥満改善に期待される褐色/ベージュ脂肪細胞

■ 感想・反省等

➤ 授業会場について

- Zoom の画面操作や接続不良によるトラブルは無かった。教員側も学生側もオンライン授業への慣れが感じられた。
- オンライン授業から対面授業に切り替わり、大きな変更点には対応できたが、むしろ見落としがちな細々とした事の処理や確認に手間取った。

(具体例)

教室の開閉手続き方法、スクリーン・マイクなどの設備、教室の収容可能人数、録音録画の要否、講義資料配布の要否、出席確認方法、資料の配布方法など

➤ レポートのテーマについて

- 2020 年度に引き続きレポートのテーマは自由に設定させた。アンケートでは「様々なテーマに触れられた」と高評価だった。2020 年度は、大きすぎるテーマ設定がなされていたり、他の授業のレポートが提出されたりと、テーマを自由にした弊害があったが、第 10 回課題①②③でテーマの規模を検討させたり、ペア演習をとりいれたことで第三者からの視点が入ったことで改善された。

➤ 課題について

- 「構造化シート」(第 10 回課題③)を初めて導入した。シート自体は説明のないシンプルな作りなので、学生が使い方に困らぬよう、具体例を実演し、またイメージ動画として共有した。
- 発表やレポート課題の説明において、再三引用文献リストの重要方法と、作成の際の注意点について説明を行い、チェックリストにも記載していたにも関わらず、最終レポートでも引用文献リストを適切に作成していない受講生が多くみられた。ペアワークの際に、作成した引用文献リストの一部を相互にチェックすると身につくのではないだろうか。また、図書館機構の初年次向け学習支援の課題としても、認識する必要がある だろう。

➤ 発表について

- 「レポート提出チェックリスト」が発表前のチェックとしても活用できた
- TA による発表のデモンストレーションが好評だった。アンケートでは、発表時間を体感できたことや発表スライドにおける図表の用法、出典の明示方法などが為になったと評価された。

➤ **その他**

- 課題の提出状態を予め想定し、配点・減点基準を決めておくべきだった。

➤ **アンケートについて**

- PandA の機能「統計情報」を活用できれば効率が上がるのではないか。